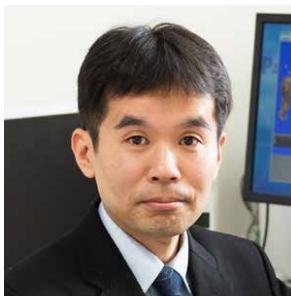


# ランチョンセミナー 新技術による病理検体におけるRNA-seq



演者：森井 英一先生  
大阪大学大学院医学系研究科病態病理学講座  
教授



座長：池田 純一郎先生  
千葉大学大学院医学研究院診断病理学教室  
教授

**4月22日（木）12:10~13:00**  
**ランチョンセミナー 2**  
**場所：第3会場 コンコード ボールルーム B**  
(会場に直接お越し下さい)

要旨：RNA-seqは遺伝子発現を網羅的に調べる方法で、近年技術革新が進み、研究分野で汎用されるようになってきている。単一細胞レベルにおけるRNA-seq技術も進んでおり、培養細胞株を用いた解析のみならず、手術で得られた病理検体の一部をコラゲナーゼなどにより単一細胞にし、それを解析することで、これまで知られていなかった新たな細胞群が判明するということもある。このように病理検体を用いたRNA-seqは非常にパワフルなツールである。単一細胞レベルにおけるRNA-seq技術の一つの限界は、もし新たな細胞群が判明したとしても、もともとの病理検体を単一細胞にした後に解析しているため、その空間的な位置を再構成することができないという点である。対象細胞群の空間的な位置把握のためには、*in situ* hybridizationや免疫染色を行うことで、再度、元の病理検体に立ち戻って検証する必要がある。ところが、近年の技術革新の結果、病理の薄切検体から直接RNA-seqを行う方法が開発された。まだ単一細胞レベルでの解析は難しいが、今後は空間的な位置把握とRNA-seqを同時に行えるようになる可能性が高い。

Distributed by